

カワウ対策の基礎知識

1 カワウの生態等

形態 ウミウよりも小型
 (全長) 80～90 cm
 (翼開長) 130～150 cm

食べ物 魚食性でほとんどの魚種を食べる。
 一日に約500 gの魚を食べる。
 (採食量は、季節等により異なる)

すみか 樹上に巣をつくり、集団で生活する(ねぐら・コロニー)。

行動特性 昼行性で早朝、ねぐらから餌場に通い、採食する。
 泳ぎが得意で、1分以上、10 mを超える潜水能力がある。
 飛翔能力が高く、長距離移動が可能。行動範囲も広い。

繁殖 繁殖時期は、年に1～2回。通常は春先が多い。
 一回に平均3～4個の卵を産む。巣立ち雛数は、環境条件により異なる。
 ・3月頃から繁殖活動(2007年, 中海)
 ・5月から巣内雛が確認でき、7月頃までに巣立ちが完了(2006年, 中海)

被害

水産被害 アユ・コイ・フナ等を食害。
 放流や遡上の時に、魚がたまりやすい場所で被害が多い。

生態系被害 糞などにより、コロニー周辺の樹木が広範囲に枯れる



カワウ(成鳥)



カワウ(幼鳥)



休息するカワウ(米子市 日野川下流)



石釜に集まったカワウ(鳥取市 湖山池)

2 カワウ被害への対策

(1) 被害対策の考え方

【被害地での対策】

コロニーやねぐらを攪乱すると繁殖集団を広域に分散させる可能性がある。

「捕獲・追い払い」は、漁業被害地で行うのが効果的。

【主な捕獲・追い払い方法】

猟銃による方法(有害捕獲)
ロケット花火による方法
案山子(かかし)による方法
人による見回り(追い払い)
テグス等による方法

【繁殖地での対策】

コロニー・ねぐらでは、集団の分散に配慮しつつ個体数調整を行う。

(他県の事例)

- ・偽卵の使用
- ・ドライアイスやせっけん水を用いた卵の孵化の阻害

(2) カワウ被害対策のポイント

《その1》「守るべき魚種・時期・場所を絞り込み、対策を集中させる」

特に被害を防ぐべき魚種を特定する・・・(例)アユ

被害を受けやすい時期を特定する・・・ 放流・遡上・産卵時期

被害を受けやすい場所を特定する・・・ 堰堤付近・産卵場所

《その2》「いくつかの方法を組み合わせると効果が高まる」

「猟銃」による有害捕獲を行った上で、「ロケット花火」を使う。

定期的な「見回り」のときに「ロケット花火」を使う。

「案山子(かかし)」を設置したら、定期的に「見回り」をする。

《その3》「みんなで楽しみながら取り組む」

人の気配のする水辺にする。

- (例) 「釣り人」・「散歩(散策)する人」など
イベント
「案山子コンクール」

【効果が高い対策】

猟銃による捕獲・追払い



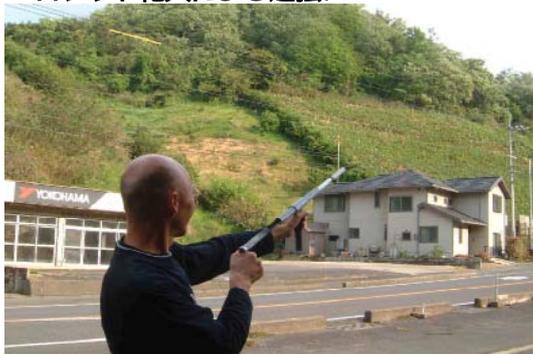
本物の威嚇効果がある。
ただし、継続が必要。
狩猟免許、有害捕獲許可が必要

テグス張り



見えないものに引っかかることにより
接近を回避させる効果がある。
テグスの高さや方向を変えてランダムに張る
ことにより効果が高まる。

ロケット花火による追払い



部品の一例

金属パイプ等を用いた花火打上げ器を用いると、花火の方向が定まり、飛距離も延びる。
猟銃による捕獲・追払いと組み合わせることで効果が高まる。

- 「案山子(かかし)」 効果が高いとされる。
ただし、人による見回りとの組合せが必要。
「防鳥テープ」 一時的に効果があるとされる。

【効果がない対策】

磁石



爆音機は効果がない

へび等の模型



C D

